



ギリシャ：人権活動家の難民認定取り消しが無効に



ギリシャで 20 年にわたりパキスタン人団体の代表を務め、移民の権利や労働者の権利などを擁護してきた著名な活動家ジャヴェド・アスラムさんは 2026 年

3 月、ギリシャ当局に難民認定を取り消され、強制送還の危機にありました。この取り消し決定が、覆されました。

パキスタン当局はジャヴェドさんを長年標的にしてきました。2007 年には不法移民や人身売買の関与が疑われるとして指名手配し、ギリシャ当局に身柄引き渡しを求めました。ギリシャ在住の 6 人のパキスタン人の支援に関わったためだと考えられます。

難民認定取り消し決定では、ジャヴェドさんがパキスタンでもう危険にさらされることはないという根拠は示されず、ギリシャで長年、生活を築いてきたという事実も考慮されていませんでした。ギリシャはパキстанを「安全な出身国」と指定しており、パキスタンの人権状況や司法制度には進展があるというのが当局の主張でしたが、パキスタンでは、人権活動家が弾圧される懸念が続いています。アムネスティは送還されれば人権侵害を受ける現実的な危険があると、ジャヴェドさんの難民の地位回復を求めて緊急行動 (UA) を展開しました。

ジャヴェドさんは取り消し決定に対し不服を申し立てていました。そしてこの 7 月、審査機関 (上訴委員会) は、「難民認定取り消しは違法」だとして、当局の決定を無効としました。委員会は、パキスタンが「安全な出身国」に指定されているからといって、庇護を自動的に却下することは許されないと指摘。また、ジャヴェドさんが数十年にわたりパキスタン当局に対して公然と批判を行ってきたことから、本国に送還された場合、迫害を受けるという十分に根拠のあるリスクに直面すると判断しました。

要請活動に参加してくださったみなさん、ありがとうございます。

ハンガリー：プライド・パレードの主催者 刑事罰を免れる



ハンガリーのペーチ市でプライド・パレードを敢行したために刑事罰を受ける危機にあったゲザ・ブザシュ=ハーベルさんの起訴が、取り下げられました。

少数民族口マのゲザさんは、学術都市ペーチ市で口マの言語・文化を教えています。また、LGBTI の人たちの権利擁護にも取り組み、ペーチ市でプライド・パレードを開催してきましたが、2025 年 10 月に 5 回目となるペーチ・プライドを主催したことで、警察の捜査を受け、送検されました。検察は裁判所に事件を送致し、公判を開かずに罰金刑を科すことを提案しました。

ペーチ・プライドは首都ブダペスト以外でハンガリーで唯一、定期的に行われているプライド・イベントですが、2025 年 4 月に施行された「反プライド法」として知られる法律のもと、警察はページ・プライドを「禁止集会」だと見なし、ゲザさんが提出したプライドの届け出に対し禁止令を発令。ゲザさんはこれを不服として上訴しましたが、最高裁判所は棄却しました。しかしゲザさんはページ・プライドを敢行し、数千人が参加しました。

そのためにゲザさんは「禁止された集会を組織した」罪に問われてしまったのです。アムネスティは「反プライド法」とそれに基づく禁止措置は、表現の自由、集会の自由、差別されない権利を踏みにじるものだと、検察に対し UA で刑事手続き終了を要請しました。

2026 年 6 月、検察はゲザさんに対する起訴をすべて取り下げました。ゲザさんは「恐怖に屈して、誰かに私たちの権利を奪わせるわけにはいきません。皆さんにも、『恐れてはいけない』というメッセージを伝えたい。私とこの件を支援してくださった皆さんに、心から感謝します」と語りました。この前向きな展開は、世界中の支援者たちの努力のたまものです。みなさん、ありがとうございます。



キューバ：デモに参加して収監されていた少年が釈放



政府に抗議するデモに参加したために成人向けの刑務所に収監されていた 16 歳の少年が釈放されました。

ジョナサン・ミューア・ブルゴスさんが参加したデモは、長期にわたる停電、食糧不足、公共サー

ビスの機能不全などに対して国民の不満が高まる中で、2026 年 3 月に発生したものでした。デモから 3 日後、ジョナサンさんはこの抗議活動に関連して警察に呼び出され、それに応じたところ拘束されてしまいます。そしてキューバ刑法上最も重大な犯罪の一つである「破壊活動」の容疑で起訴され、成人向けの刑務所に収監されてしまいました。有罪となれば最高 15 年の刑が科されるおそれがあります。

家族によれば、勾留中に心身の健康状態が悪化したそうですが、適切な治療は受けられなかったとのこと。また、国際人権法の下では、子どもは成人と別に収容するのが原則です。成人から暴力や虐待を受ける危険があるからです。それ以前に、子どもの自由をはく奪するのは、あくまで最終手段で、拘禁する場合でも短期間に限るべきとされています。

アムネスティは UA を出し、ジョナサンさんの釈放、成人刑務所からの移送、必要な医療の提供を求めるとともに、表現の自由や平和的集会の権利を平和的に行使した人たちを、刑法を使って、罰したり脅したりするのをやめるよう、要請しました。

ジョナサンさんは、3 カ月以上にわたる収監を経て、2026 年 6 月 24 日に釈放され、家族の元へと帰りました。ジョナサンさんに対する起訴が取り下げられたわけではなく、アムネスティは引き続き事態を注視し、悪化すれば行動をまた起こします。

米国：非人道的な移民収容施設が閉鎖

2025 年 7 月、フロリダ州の大湿地帯に非正規移民の臨時収容施設が開設されました。トランプ政権の大量強制送還政策の一環です。周りにはワニやヘビが多数生息し、脱出不可能な監獄として知れたアルカトラズ島を想起させることから「アリゲーター・アルカトラズ」と呼ばれました。

開設から数週間も経たないうちに、トイレはあふれ、シャワーが使えないなどの不衛生な環境で、医療も提供されず、弁護士との面会も極めて限られるという報告が相次ぎました。アムネスティは事態の調査に乗り出し、残忍で非人道的な環境で収容されていると糾弾する報告書を発表。上記の状況に加え、狭い場所に大人数が押し込められ、外に出るときは常に手錠をはめさせられ、時には「箱」と呼ばれる金属製の檻に入れられて炎天下の屋外に水や食料もほとんど与えられないまま、拘束具で固定されて最長で丸一日放置されることがあるなど、拷問に相当する扱いもありました。

また、連邦政府の監督外で運営されており、ICE（移民税関捜査局）の施設で使用されている基本的な追跡システムも備えていませんでした。収容された人たちに対する登録・追跡する仕組みがないということです。安否や所在がわからない状態になり、記録がなければ法的権利や適正手続きも受けられない、秘密拘禁ではないかと国内外で大きな非難を浴びました。

アムネスティは収容施設の閉鎖を求めて UA をはじめとするキャンペーンを展開。こうした粘り強い圧力が功を奏し、2026 年 6 月末までに、収容されていた全員が移送され、アリゲーター・アルカトラズは永久に閉鎖されることになりました。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0052 東京都千代田区九段下 1-5-9 九段誠和ビル 5F
TEL：03-3518-6777 FAX：03-3518-6778
E-mail：uaoffice@amnesty.or.jp

UA 年会費 1,500 円
郵便振替 00120-9-133251